

紀要の発展を願って

新潟リハビリテーション大学学長 野田 忠*

Tadashi NODA, D.D.S., Ph.D.

President

Niigata University of Rehabilitation

新潟リハビリテーション大学も完成年度を迎え、平成26年3月には第1期生を送り出す。優秀な学生を育てるといえるのは、大学として当然のことだが、大学としての役目はそれだけではない。さまざまな役目があるが、その中で大きいのは、教えているリハビリテーションの学問的な裏付け、Evidence, 証拠, 根拠を、追求してゆくことである。

何故このリハビリテーションを行うのか、その効果はどうか、得られたデータを解析し、治療の更なる向上を目指してゆく。いろいろな実験も行い、臨床に反映させてゆかなければならない。

ノーベル賞を受賞した山中伸弥教授も言っていたように思うが、研究をして、予想外の結果が出たとき、それは宝の山、掘り起こし、それを追究することで、新しい世界が開けてくる。もちろん、ガッカリすることもないわけではないが、追究することで、研究者としての能力が高まる。

大学として始まったばかり、学生を育てるのに全力を注いできたが、次のステップ、Evidence を求める段階に進む時期が来た。若手の研究者を育てる中で、大学の紀要は役目を果たして行くこと

になる。

研究を行い、その成果を発表するが、現在の学会誌、国際学術雑誌への投稿は、自分が論文を書き始めた50年近く前に比べて、かなり難しくなっていると思う。もちろん、最初からそういう雑誌に掲載されることもないわけではないが、多くの場合は助走が必要だろう。その役目が紀要だと思う。大学院生の修士論文、あるいは、その前段階の研究発表、若手教員のトライ的な研究成果の発表の場として、紀要を活用して欲しい。紀要に発表し、批判を含めて多くの人の意見を聞くことで、研究者として育てゆく。

もちろん、初歩的な研究論文だけではなく、充実したレベルの高い論文も掲載して欲しいし、英語での論文も書いて欲しい。注目される紀要に育つことを期待したい。

大学では、さまざまな分野の人が、さまざまな研究を行っている。大学の紀要は、大学内の人たちの相互理解にも役立つ。研究が紀要に載ることによって、お互いの理解が深まるとともに、お互いに研究を助け合うことが出来る。

紀要も2年目を迎える。大学としてのステップアップ、さらなる発展を願っている。

* Corresponding author:

新潟リハビリテーション大学

〒958-0053 新潟県村上市上の山2-16

Tel : 0254-56-8292

Fax : 0254-56-8291

E-mail : noda@nur.ac.jp